

【開催レポート】3/12 コレクティブふくおか+ 実践プログラム⑧
活動報告会・フォローアップ

Collective Fukuoka Plus

コレクティブ
ふくおか+

3/12(土)

15:00 - 18:00

オンライン



プレゼンテーションした内容について実際にやってみたことを、共有したり振り返りや今後につなげるためのフィードバックを行います。

【開催レポート】実践プログラム⑧ 活動報告会・フォローアップ

こんにちは！コレクティブふくおか+事務局です。

2022年3月12日、「コレクティブふくおか+」の実践プログラム⑧「活動報告会・フォローアップ」の開催レポートをお送りします。

活動報告会

前半の活動報告会では、前回のプログラムで各チームが発表したプロジェクトについて、実際にアクションしたこと等を、他の参加者や一般聴講者に共有し、共感者（仲間）を集めました。

持続可能な環境づくりチーム

海岸に漂着しているゴミ問題の現状を知ったことから、参加者がビーチクリーンをすることで海の現状を知ってもらい、自分事として捉えてもらうこと、また学生同士が大学を超えたつながりを持ち、一步を踏み出すきっかけづくりとして2月26日（土）に実施した、海の中道海浜公園でのビーチクリーンイベントについて発表しました。

【チームメンバー】 ayane、ちーぱる、たーとる、こうけいまる、リンゴ

学生交流 × ビーチクリーン

☆狙い☆

- ・ 学生交流の場づくり
- ・ 海洋ゴミ問題の現状を知ってもらう
- ・ 福岡を活性化できるような活動につなげたい

UMI-NO-NAKAMICHI BEACH CLEAN

APPLICATION FORM ONLINE

Event information

2/26 (土)

時間 : 14:00~16:00 (13:50集合)

場所 : 海の中道玄界灘側海岸

集合 : 海の中道駅入口入園ゲート

学生交流 × ビーチクリーン

近年、国際的に懸念されている海洋プラスチックごみ問題。福岡の海でも多くのゴミが漂着しています。福岡の学生で楽しくビーチクリーンしませんか！

共催 : コレクティブふくおか+持続可能な環境づくり班、学生団体maPLA
後援 : 福岡市
「コレクティブふくおか」に関する情報はこちらから→
連絡先: 330mapla@gmail.com (maPLA代表: 宮崎幸志)

中高生の人生設計チーム

新規学卒就職者の早期離職率が高く、就活生には自己理解に関する悩みが多いことから、学生のうちに人生設計を明確にし、納得のいく就職活動をしてほしい、就職後にギャップに悩む人を減らしたいという思いから、2月27日（日）に実施した、中高生対象に自分を知るワークショップイベントについて発表しました。

【チームメンバー】 ぞえ、くら、ミウサウルス、つつちー、umi

企画の内容①

Collective Fukuoka Plus

インタビューによる自己理解の促進

高校生
→インタビューに回答

私たち運営
→経験談、やりがいに感じたことから
各自の強み、なりたい姿を引き出す

😊 ブレイクアウトルームに
分かれて少人数で

仕事も子育ても大切にできる社会づくりチーム(フリースタイルカフェ)

人口動態、社会変化や育児交友の“気をつかう”問題、育児コミュニティなど子どもを取り巻く環境に課題があると考え、つながりを生むリアルな場所、きっかけ作りで支援の輪を広げるために、大人も子供も解放するフリースタイルカフェの企画について、その後の活動を発表しました。

【メンバー】 おがしん

—課題の整理—

支援の在り方の一步目を考える

すべてつながっている。

「自分」「育児」の時間を充実させ、「家庭」「仕事」の好循環つなげる

仕事も子育ても大切にできる社会づくりチーム(ジェンダー平等社会)

「性別に関係なく、自分が本当に望む選択ができる社会にしていきたい」という思いでこれからの日本を担う若い世代に、もっと気軽にジェンダー平等について考えるきっかけが作りたいと考え、3月8日(火)に実施した、大学生とのトークセッション(ライブ配信)等について発表しました。

【メンバー】 ゆうかす

取組②大学生×センター長 トークライブ

- 3月8日(火) 12時~13時 国際女性デーにあわせて
- テーマ「Z世代が語る、ジェンダー平等社会」
- 大学生の将来の夢やキャリア形成に関する考え方、自分たちが考えるジェンダー平等社会、ジェンダー平等社会になるために今後やっていきたいことなどを語った

国際女性デー特別企画
3月8日12時よりYouTube ライブ 配信決定

国際女性デー

3/8から 国際女性デーフォトブース設置 クローバープラザ6棟1階「あすばる」事務所前

身近な文化の発信チーム(歴史絵本)

子どもたちに自分の育った街「福岡」に興味を持ってもらうために、現在販売されていない福岡の歴史上の出来事を体験することができる絵本『のったよ！ふくおかタイムスリップ号』を復刻させるプロジェクトのその後の活動を発表しました。

【メンバー】エポニーヌ



テンジン大学・岩永さんへの取材を終えて。。

制作期間2年

『のったよ！ふくおかタイムスリップ号』

〈あらすじ〉
偶然タイムスリップした男の子が、しゃべる列車フクと一緒に福岡の歴史上の出来事を体験する。
現在は販売されていない。。

フラワーロスチーム

フラワーロス問題を仕組みから解決しようとしている CAVIN の取り組みを知り、消費者側の課題として、花を特別な日のみ購入するのではなく、日常的に購入したり、もっと身近な存在にしたいという思いから、2月26日(土)に実施した、日常づかいとしての「お花」を買う体験イベント『ポケットフラワー』について発表しました。

【チームメンバー】Otabana flower、ちえ



チームが取り組んだこと～配布イベントの開催～

【日時】2022年2月26日(土)
10:00~19:00

【場所】HAPPY HILLにて

ポケットサイズのお花30セット無料配布

【受け渡し方法】
HAPPY HILLスタッフさんよりご来店のお客様へ

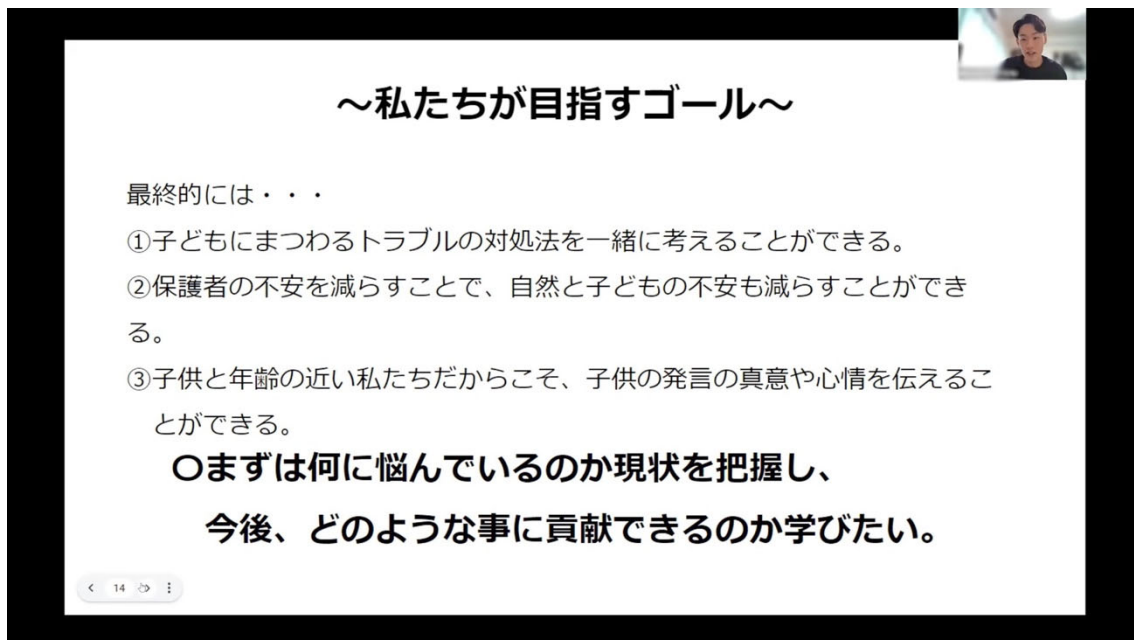
【このイベントを通じて得たもの】

- ・各工程の流れの把握
- ・イベントに来てくださった方に Instagramをフォローしてもらえた！

中高生の不登校(精神面)を支えるチーム

「なぜ、いじめや不登校が起ってしまうのか？」という現状を理解し、少しでも中高生の不安を解消したいという想いで、子供と年齢の近い自分たちだからこそ、子供の発言の真意や心情を伝えることができると考え、現状を把握するために保護者の悩みを知り、最も必要とされていることへのアプローチ方法を検討しています。フリースクールの合同説明会への参加など、その後の活動について発表しました。

【チームメンバー】 あーたんさーたん、南蛮、Shunsuke



～私たちが目指すゴール～

最終的には・・・

- ①子どもにまつわるトラブルの対処法を一緒に考えることができる。
- ②保護者の不安を減らすことで、自然と子どもの不安も減らすことができる。
- ③子供と年齢の近い私たちだからこそ、子供の発言の真意や心情を伝えることができる。

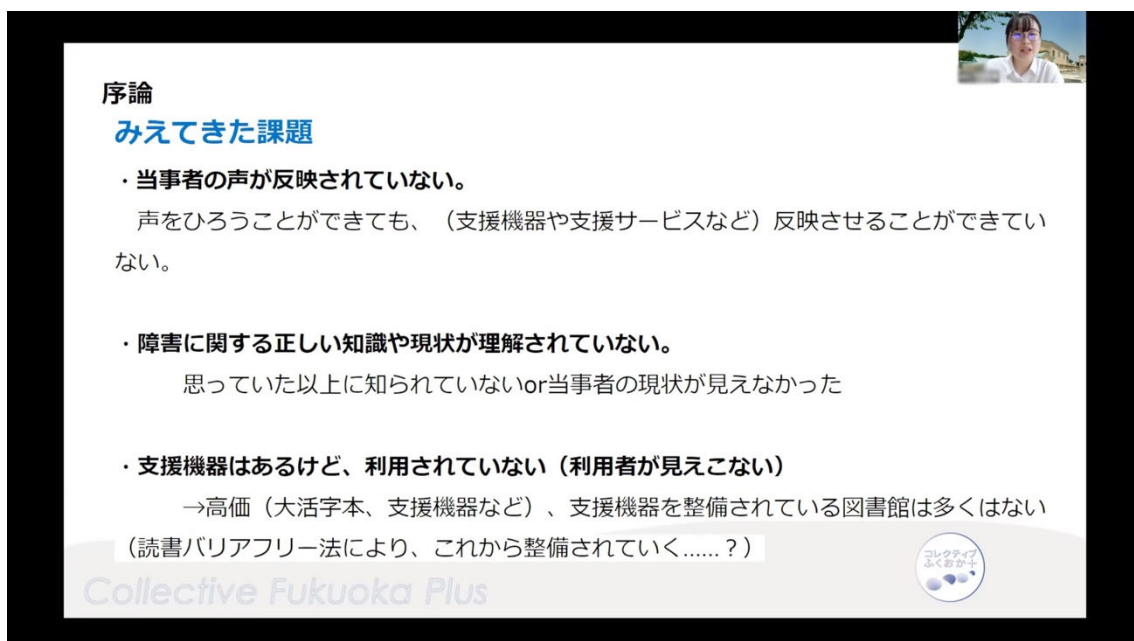
**○まずは何に悩んでいるのか現状を把握し、
今後、どのような事に貢献できるのか学びたい。**

< 14 > :

目に見えない障害とユニバーサルデザインチーム(図書館利用について)

図書館では、支援機器はあるけれど利用されていないこと、障害を持っている当事者の声が反映されていないことや障害に関する正しい知識や現状が理解されていないことが課題と捉え、障害のある方の図書館利用を支援し、人と人を図書館で繋げる活動について、その後の活動を発表しました。

【メンバー】 umi




序論

みえてきた課題

- ・当事者の声が反映されていない。
声をひろうことができても、(支援機器や支援サービスなど)反映させることができていない。
- ・障害に関する正しい知識や現状が理解されていない。
思っていた以上に知られていないor当事者の現状が見えなかった
- ・支援機器はあるけど、利用されていない(利用者が見えこない)
→高価(大活字本、支援機器など)、支援機器を整備されている図書館は多くはない(読書バリアフリー法により、これから整備されていく.....?)

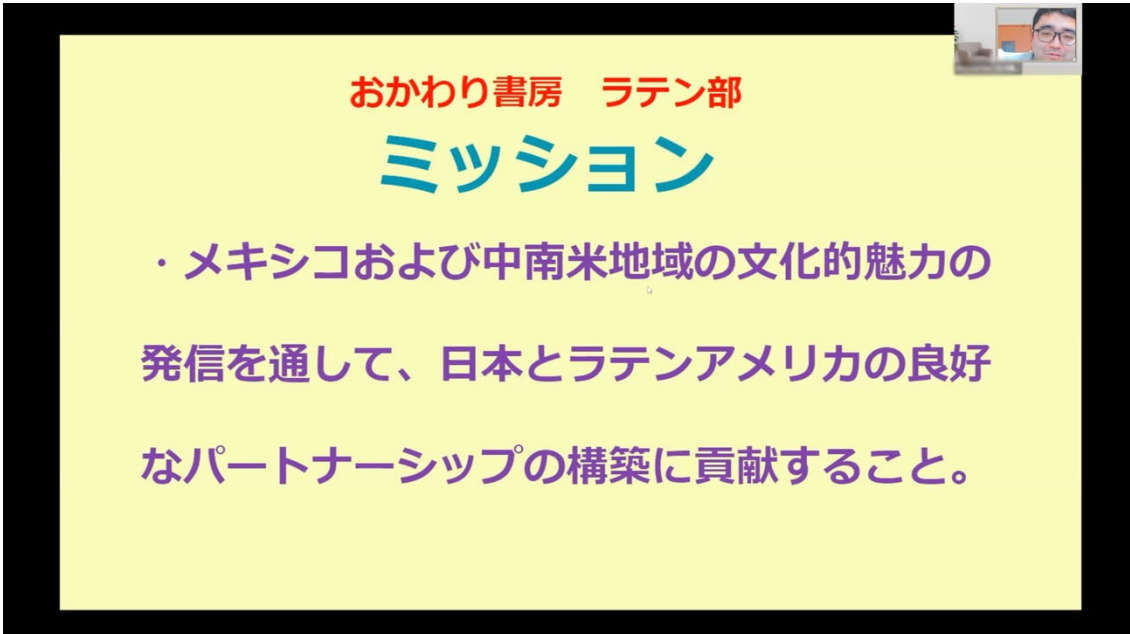
Collective Fukuoka Plus



身近な文化の発信チーム(メキシコ)

コロナ禍で視野が狭まり、世界の分断が進んでいることを懸念し、外の世界を知ることで、身近な物事を深く知るきっかけにしたいと考え、普段の生活や身近な文化が実は遠い中南米と繋がっていることを知ってもらう「メキシコ・ラテンアメリカオンラインツアー」の実施に向けて、その後の活動を発表しました。

【メンバー】 OKAWARI KUN



The slide features a yellow background with a small video feed of a man in the top right corner. The text is centered and reads:

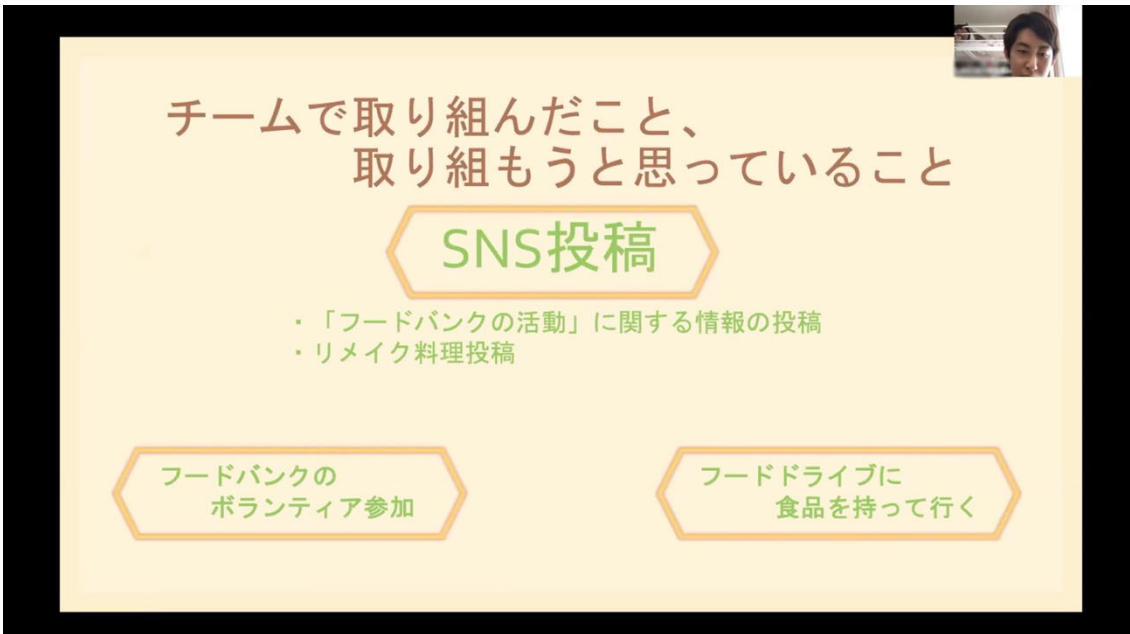
おかわり書房 ラテン部
ミッション

・メキシコおよび中南米地域の文化的魅力の
発信を通して、日本とラテンアメリカの良好
なパートナーシップの構築に貢献すること。

フードロスチーム

フードロスやフードバンクの活動についてもっとみんなが知れば、意識が変わりフードロスが減るのではと考え、インスタグラムでフードロスの啓蒙活動を行い、その後の活動について発表しました。

【チームメンバー】 しゅん、Y、おさかな



The slide has a light orange background with a small video feed of a man in the top right corner. The text is centered and reads:

チームで取り組んだこと、
取り組もうと思っていること

SNS投稿

- ・「フードバンクの活動」に関する情報の投稿
- ・リメイク料理投稿

フードバンクの
ボランティア参加

フードドライブに
食品を持って行く

子どもの居場所づくりチーム

何らかの活動をしたいと思っている人たちが、資金面が理由で活動継続が難しい背景を知り、気軽に相談できる場所やサポートがあると、活動を継続したり、活性化することができると考え、グラントライティング講座を企画中。その後の活動について発表しました。

【チームメンバー】とみー、あめ

The slide is titled "アクション" (Action) at the top center. Below the title is a large orange-bordered box containing the following text:

- グラントライティングの講座の開講**
- 助成金を得るために求められる文章作成の考え方や技術
- ↓
- 助成金の申請のサポートにより資金調達の課題を解決**

At the bottom left of the slide, the text "Collective Fukuoka Plus" is visible. At the bottom right, there is a circular logo with the text "コレクティブ 福岡プラス" and a graphic of three blue circles.

一般聴講者の感想

ご参加いただいた一般聴講者の声を一部ご紹介します。

フラワーロス、フリースクール、グラントライティングなど知らなかった言葉があって学びとなりました。日頃、話す機会の少ない世代の方との対話、話を聴くことは多くの気づきを得ることができ、また発散する思考にとっても効果的だと思いました。

このような貴重な報告会に参加させていただき、ありがとうございました。活動者の皆様が福岡市をもっと良くしたいという気持ちを感じることができ、自分も動かなければという気持ちになりました。

各自が関心を持ったことに対し、自主的にできる活動から始める（アクションを起こす）ことを実際に行っていて、20代のうちにライフワーク的に自分の気の持ちようであることができるということを知るいいきっかけとなる企画だと思いました。

フォローアップ

後半では、“仲間とともに暮らしをつくる”ってどういうことなんだろう？”等をテーマに、参加者とこれまでの振り返りを行いました。プログラムを終えた参加者の皆さんの表情は達成感と充実感に満ち溢れていました。

コレクティブふくおか+を通じて見つけた「仲間」は？
(みんなでスライドに書き出してみよう！)

課題感を発信できる人たち

自分に刺激を与えてくれた人

感を持っている人。前線に立って活動している当事者の方々。

同じ問題を解決したいと思う人

同じ課題を解決したいと思う人

同じところに興味を持った人に出会うことが出来た。

今まで出会ったことのない考えをもっている人たち

共感できる人たち

同じ課題を持つ人

しっかり者

プロジェクトを通して出会ったすべての中高生の人生設計のメンバ

違う考えを持ちながらも同じ問題に取り組んでくれる仲間

新しい気づきや発見をくれた人達

主体的に行動できる人たち

同じ課題を持ち共感し合える人

グループ4「仲間とともに暮らしをつくる」ってどういうことなんだろう？

- 異なる価値観や課題感で「共通」となる部分で支え合う。
- 「共感」し合える部分を見つける、作る、輪を広げていく
- 仲間を見つける
- 思い、思われる
- 当事者意識を持つ
- 違う課題感を持って活動していても共通する部分があり、社会に還元される
- 良い点と悪い点を共有して、生活していく
- 自分ができないことを仲間と共に支え合う
- ルール、配慮によってどんな人も暮らしやすいように
- 相手によりそう、価値観を共有する、理解してあげる

Collective Fukuoka Plus

グループ1「仲間とともに暮らしをつくる」ってどういうことなんだろう？

楽しい。目標を持って活動している人に出会うことでモチベーションが上がった
それぞれがやりたいことをやることは、還元されて、循環してそれぞれの暮らしを豊かにする

当事者意識を持つ
誰かを想う、寄り添う
社会をよりよくするためにアクションや問題提起をし、学んで自分事として捉えること

知る→発信する(声をあげる)
キーワード「自分事」→ 圧倒的自己意識

暮らし=日常
みんながすごしてもよくなればいい(ちょっとでいい)
ひとりでやるよりもみんなでやればよくなる

「ルール」をつくる
空気を読まない文化
いいところを伸ばす文化
意見のすり合わせ

Collective Fukuoka Plus

参加者の声

ご参加いただいた方の声を一部ご紹介します。

コレクティブふくおか+に参加して、色んなことを知ることが出来ました。また、物事に対して、自分の考え以外のことを考える良いきっかけになりました。これからも継続していきたいので、どうぞよろしくお願い致します！

学生や社会人の方と交流することが出来て刺激をもらうことが出来ました。

思索の毎日ですが、本当に楽しいです。これからも続けていきます！！本当にありがとうございました！

実際に課題を知り、行動を起こせることができ、自分自身でできる環境問題対策を実践出来たことが一歩に繋がった。

短い間でしたがありがとうございました！また、支えあった仲間感謝したいです。

「社会課題を知ること自体が学びだった」というように、まずは知ることも大切だと思いました。

コロナで大変なか様々な企画ありがとうございました。貴重な機会になりました。参加してよかったです。

本プログラムを終えて

まず初めに、コロナ禍の中、無事に参加者の皆さまがプログラムを終えることができたことを心から感謝いたします。またコレクティブふくおか+の各チームのメンターの皆様、開催にあたり、支えていただいた関係者の皆様、この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

“自分たちが暮らす地域や社会のためにできることって？”と考え、行動する若者たちのアクションは、これからも続いていきますので、引き続き応援よろしくお願いします。